



AG-3DA1

“現場に究極のメリットをもたらしてくれる” 「3D」＝制作会社に新たなビジネスチャンスを創出

株式会社 クリエイターズ・プラス

テレビ制作会社を中心に 25 社が出資する（株）クリエイターズ・プラスは、パナソニックの一体型二眼式 3D カメラレコーダー [AG-3DA1] を、パートナー企業と共同購入した。

同社では、制作会社の自立をサポートする事業の中で、マルチメディア活用が期待されるコンテンツ開発などに係わる技術や情報をパートナー間で共有することを目的として定期的にセミナーを開催しているが、「3D」をテーマとしたセミナーでこれまでにない強い反応を得たことから、3D カメラを共同購入し、様々な検証を行っていくこととした。

同社代表取締役社長で、（株）いまじん代表取締役会長の柏井信二氏は「3D コンテンツ制作に関しては、制作会社の新しいビジネスチャンスを生み出すものと期待されています。これまでは放送局との受発注が業務の大半を占めていますが、テレビ番組の制作費削減は確実に進んでいます。制作会社が自立していくためには、テレビ以外のコンテンツも含めて活路を見いだしていかなばなりません。我々が前面に立って、クライアントの展示映像やデジタルサイネージなど、様々なカタチで提案していくことも可能ではないかと考えています」とする。

クリエイターズ・プラスで経営企画を



堀川健二氏 柏井信二氏



担当する（株）アートファイブ 代表取締役社長の堀川健二氏は、「制作会社では、3Dにより表現の可能性が広がっていくことに大きな期待を寄せています。共同購入した理由は、1社あたりの負担を軽減すること以上に、1社だけでは難しいノウハウを積み上げ、経験したものを共有していくことが必要だと考えたからです。現場の第一線で活躍する若いスタッフたちが最初から勉強せずに済むよう、クリエイターズ・プラスで様々な現場ノウハウを積み重ね、家庭での3D視聴における安全面の基準などについて検証を進めていきたいと考えています」と話す。

〔AG-3DA1〕を選択した最大のポイントは“機動性”。クリエイターズ・プラスでは特に、3D映像のライブ中継や水中撮影への活用を考えており、水中撮影においては、専用ハウジングを開発するとともに、2010年12月初旬には南の島で実施する海外ロケにおいて、様々な検証を行う予定となっている。

また、〔AG-3DA1〕は光軸・画角の調整が不要、コンバージェンスポイントと色の調整のみで3D映像の撮影ができ、撮影前の調整時間が大幅に短縮できることも理由の1つ。堀川氏は「このカメラによって、撮影前の調整時間が大幅に短縮できるだけでなく、撮影時に必要な最低人数にも差が出てきます。この“時間”と“人数”は、現場における究極のメリットではないかと考えています」という。

柏井氏は「3Dで最も気になるのが編集コストです。〔AG-3DA1〕によって、この編集コストが緩和されるのではないかと期待しています」としている。

さらに、〔AG-3DA1〕の画質について柏井氏は「パナソニックのデモ映像や、パートナー社が実験的に撮影したマジックの映像等などを見ても、全く違和感なく撮れていますから、何ら心配がありません」とし、堀川氏も「デモ映像には驚かされました。照明を使わない手持ちカメラのロケ撮影ながら、クオリティの高さを感じました」と“太鼓判”を押している。